

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|-----------|------------|
| 事業所番号 | 3590700161 | | |
| 法人名 | 有限会社誠心会 | | |
| 事業所名 | グループホーム笠戸 | | |
| 所在地 | 山口県下松市大字笠戸島32-38 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年5月25日 | 評価結果市町受理日 | 平成29年9月11日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク | | |
| 所在地 | 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年6月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域の自治会に加入して、地域で開催される運動会や公民館祭り、ゴミゼロ作戦等にも積極的に参加して地域の皆さんとの触れ合いを大切にしている。また、施設で行う研修会やボランティア演奏会には地域の皆さんにも参加を呼び掛けている。②月初には、その月の健康と長寿をお祝いしてお赤飯をいただいている。また、季節に応じた壁面や部屋飾りに工夫をし、メリハリをつけて季節の変化を楽しんでいただいている。③その月の誕生者にはご家族もお越しいただき皆でお祝いをしている。また、ご家族には親元に帰ってきたような気分で寛げるよう雰囲気づくりを心掛けている。④野外散策として、施設周辺の木々の緑や海などの自然を楽しんでいる。⑤グループホーム内で医師の診察を受けることができる。(2週間毎)訪問薬局もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

献立から食材の買い物、調理まで、職員が交代で担当されて、三食とも事業所で食事づくりをされています。事業所の畑で、利用者と一緒に苗植をしてつくられた野菜を収穫して、食材として使用しておられ、利用者は野菜の下ごしらえをしておられます。誕生日会食や秋刀魚パーティ、弁当を取り寄せてのランチ女子会の他、弁当を持参して戸外で食べられたり、喫茶やファミリーレストラン、うどん店などでの外食など、「食」を通じた様々な取り組みをされて、利用者が食事を楽しむことができるように支援しておられます。ラッキョやキュウリの漬物づくり、干し柿づくりをされている他、球根からユリを育てられ、大きく咲いた花を公民館やご近所に配布されたり、銀杏拾いをして、秋の火祭りで売られているなど、日々、張り合いのある生活をされています。毎日の入浴の支援や、2カ月に1回、おしゃれ会を開催され、マニキュアやお化粧、訪問美容師による髪のカットなど、利用者の清潔を保たれたり、身だしなみへの支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|--|-----------------------|---|
| 57 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 64 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 58 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 65 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 59 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 60 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 63 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 会社の理念をモットーに職員の出入り口等ホーム内3か所に掲示して、朝礼の引き継ぎ時に唱和をし、実践している。 | 「明るく、楽しく、元気で、大きな挨拶」という会社の理念を事業所の理念とし、事業所内に掲示し、実践につなげているが、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作成するまでには至っていない。 | ・地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念の作成 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地元自治会に入り、地域の住民として公民館等の地域の行事や夏祭り、触れ合い祭り、どんと焼きや運動会、草引きなどにも参加して地域の皆さんと交流している。 | 自治会に加入している。草刈り作業には、利用者と職員が参加している。地域の祭り(笠戸島アイランド祭り、深浦ふれあい祭り、秋の火祭り)や、運動会、どんと焼きなどに、利用者と職員と一緒に参加し、地域の人と交流している他、地域の運動場でグランドゴルフをしている地域住民と交流している。併設のデイサービスセンターに来訪しているボランティア(マンドリンやハーモニカ演奏、フラダンス、手品、腹話術、朗読会)の演奏や演技などを見学している。見学者の受け入れをしている他、近所の人が話をしに来ているなど、地域の一員として、日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議等で民生委員のご意見や地域の皆様からの認知症に対してのご質問やご相談を随時受け付けており、対応方法についてのお話などを通じてご理解を深めている。 | | |
| 4 | (3) | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 今回初めて外部評価を受けますのでとても楽しみにしています。今後とも、内外の皆様からの貴重な声を活かしてサービスの質の向上に努めます。 | 管理者は、職員ミーティングで、評価の意義について全職員に説明している。職員に評価項目を分担して、評価するための書類に記入してもらい、管理者がまとめている。まとめたものを、職員に回覧して、共有しているが、自己評価を活かすまでには至っていない。 | ・全職員が全項目での自己評価への取り組み ・評価を活かす取り組み |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会は、1回/2ヶ月に開催して日常の活動報告や取組状況等を説明し、運営推進委員の皆様からのご意見をいただきながらサービスの質の向上や生活の中に活かしている。 | 会議は2ヶ月1回開催している。メンバーは、家族、自治会連合会長、民生委員、市認知症を支える会代表、地域包括支援センター職員、施設代表、事務局で構成している。行事の予定や報告など、事業所活動や取り組みなどを報告し、意見交換しているが、意見はあまり出ていない。事業所の場所が分かりにくいという意見から、道案内用看板の設置をしている他、地域行事の情報を得て、利用者が参加しているなど、活かしている。 | ・意見が出しやすくなるための会議の内容や持ち方の工夫 |
| 6 | (5) | ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進委員会には必ず参加していただき運営方法や実情を話して協力関係の構築に取り組んでいる。 | 市担当者とは、電話や直接出向いて情報交換をし、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をし、連携を図っている。 | |
| 7 | (6) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員に対して、「身体的拘束ゼロへの手引き」を参考に職員ミーティングで勉強会を開催している。スピーチロックについての説明を行っている。日中での施錠はしていない。 | 職員は、身体拘束について職員ミーティングで学び、正しく理解して、身体拘束をしないケアを実践している。スピーチロックについては、施設長や管理者が指導している。日中、玄関の施錠はしていない。外出したい利用者には、職員が寄り添って支援している。 | |
| 8 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員ミーティングに於いて、“高齢者虐待防止関連法”を学び職員間で周知徹底し、意識の向上を図っている。 | | |
| 9 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見制度を利用している利用者の方はいない。これから必要性があれば話し合う機会を設け活用できるよう支援をしていきたい。 | | |
| 10 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約日に、契約の締結等説明し、ご理解と同意を求め納得して「確認書」を用いて確認を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の面会時に、ご意見・ご相談・ご要望等について話し合いをして改善や調整を行い反映させている。苦情に関しては受け付け体制は出来ている。 | 相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明、周知している。意見箱を設置している。面会時、運営推進会議時、電話などで、家族からの意見や要望を聞いている。市の介護相談員が、2～3ヶ月に1回、来訪して、利用者の話を聞いている。ケアに関する家族からの要望には、その都度対応している。 | |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 1回/年個別面談や毎月開催している職員ミーティングで意見交換や勉強会を行い改善点を見つけて反映している。 | 月1回の職員ミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で管理者が聞いている。年1回、代表者による個別面談がある。ケアに関するものや、室内の配置替えなど、職員の意見を活かして、その都度改善している。 | |
| 13 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格取得に向けた支援あるいは研修会等への積極的な参加を促し、職員のモチベーションを上げるよう努力している。 | | |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 担当者を決めて、1回/月内部研修会を実施している。また、資格取得への協力体制及びスキルアップの繋げるよう進めている。 | 外部研修は、研修の情報を職員に伝え希望を聞いているが、参加者は少ない。内部研修は、月1回、職員が交代で、その都度テーマを決めて、講師を担当して実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> 計画的な研修の実施 研修内容の充実 外部研修への参加機会の確保 |
| 15 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 自社内での他の事業所内との交流は、イベントの手伝いや研修会、会議等を通じて行っている。また、これからは、他のグループホームとの交流会にも取り組んでいきたい。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 16 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に、ご本人と面談を行い、不安なことやご要望などをよくお聞きして、安心していただけるよう信頼関係づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に、ご家族に施設を見学していただき毎月発行しているホーム便り等を紹介して、不安なことやご要望などを良くお聞きして、安心していただけるよう信頼関係づくりに努めている。 | | |
| 18 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族の意向をしっかり把握したうえでいま必要とされる支援を見極めて、ご本人やご家族から安心していただけるようなサービスの提供に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に暮らすという意識を持ち、人生の先輩から学ぶという姿勢の元で生活している。掃除や食事・洗濯ものやたみなど“有難う”、“助かったよ”と声掛けをして助け合いの関係を築いている。 | | |
| 20 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族や友人がいつまでも気軽に面会に来られる雰囲気づくりをしてご本人に必要なものなども職員と一緒に支え合っていく関係を築いている。 | | |
| 21 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や知人の面会やご自宅までのドライブ、お墓参り等馴染みの関係を保っている。また、面会時にはごゆっくり過ごしていただきこれまでの関係が継続されるような支援に努めている。 | 家族の面会や親戚の人の来訪がある他、入院中の家族を見舞う利用者の送迎の支援をしている。生家や墓地周辺へのドライブの他、家族の協力を得て、一時帰宅や宮参りへの参加など、関係が途切れないよう支援に努めている。 | |
| 22 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の方同士と一緒に生活する家族として仲間になっていけるように支援している。 | | |
| 23 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期入院による退所者の入院先の病院等へちよくちよくお見舞いに行き、ご相談などの話し合いに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 24 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎日の生活の中でご本人の意思や希望を傾聴しご本人の意向に沿うよう努めている。また、日々の言動や表現などからも本人本位であるよう努めている。 | 入居時の基本情報やアセスメントシートを活用している他、日常の様子や言葉、したいことなどを行動、介護記録に記録して思いや意向の把握に努めている。 | |
| 25 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族からの情報やご本人からの話を傾聴しながら生活歴や馴染みの暮らし等これまでの経過の把握に努めている。 | | |
| 26 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの出来る力、理解度等を生活の中で見出して得意なこと等でやる気を出すように努めている。 | | |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケア会議などで一人ひとりの問題点を話し合い、ご意見やアイデアなどを反映して介護計画に繋げている。 | 職員ミーティングでケアカンファレンスを開催し、利用者を担当している職員の意見や、本人の思い、家族の意向、かかりつけ医や看護師の意見を参考にして、計画作成担当者を中心にして話し合い、介護計画を作成している。行動、介護記録に計画を記載し、日々実践状況を記録して、6ヶ月毎にモニタリングを実施して見直しをしている。利用者の状態や状況に変化があればその都度、話し合っで見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 28 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の方一人ひとりの日々の様子やケア方法の実践について記録に残している。状態に変化があった場合には、その都度、職員間で情報を共有して具体的なケア方法等の検討を行っている。 | | |
| 29 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状態に変化が生じた場合など、医療機関と連携を取り、ご家族に電話で報告・相談し、受診・入院等の支援、病院でご家族と同居するなど柔軟な支援に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源であるボランティア(歌・朗読・舞踊・フラダンス・楽器演奏会など)に来ていただき、心豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | | |
| 31 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関を掛かり付け医として往診(2回/月)している。また、病状により受診を希望される場合は、職員もご家族と同席して適切な医療が受けられるように支援している。 | 利用者全員が、協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療がある他、必要に応じて受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。夜間や緊急時には、看護師が協力医療機関に連絡をして、必要があれば、救急車での対応をして、適切な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 32 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師には、随時、報告・連絡・相談できる体制が整っており、定期的あるいは突発的な場合においても適切な受診や看護が受けられるように支援している。 | | |
| 33 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された日からご本人には寂しい思いをされないようお見舞いに行き、ご家族や病院関係者と情報交換や相談に努め看護師との関係づくりにも努力している。 | | |
| 34 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期については、利用者の方が医療が必要となりホームでの生活が困難になった場合は、ご家族・主治医・看護師・ケアマネ・職員と十分に話し合いを行い、今後の支援に取り組んでいる。 | 重度化や終末期に向けて、事業所でできる対応について、契約時に口頭で家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族や看護師、かかりつけ医と話し合い、入院や入所も含めて方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。 | |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | 同法人の看護師の協力要請を整えている。事故防止に向けて十分気を付けて対応している。また、看護師による職員研修会等、今一度、初期対応訓練を定期的開催して実践力を身に付けていきたい。 | 事例が発生した時には、その場にいた職員が報告書に記録し、管理者が対応策を書き込んで、全職員に回覧し、共有して事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練は定期的実施していない。 | ・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の実施 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 1回/月、職員と利用者の方全員で火災・土砂・水害等の避難訓練を行っている。また、休日や夜間にも緊急連絡網を通じて呼び出し訓練を行っている。 | 毎月1回、併設施設(デイサービスセンター)と合同で、火災や土砂、水害等を想定した避難場所確認等の避難訓練を実施している。職員は緊急連絡網での呼び出し訓練をしている。市の出前講座で「土砂災害全国防災訓練」を地域住民と一緒に受講している。災害時の地域との協力体制を築くまでには至っていない。 | ・地域との協力体制の構築 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 37 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の先輩として尊敬しプライドを傷つけないよう、居室への出入りの際は声掛けや入浴時、排泄時の介助にはドアを閉めるなどの対応を心掛けている。 | 施設長や管理者は、職員ミーティングの中で、利用者に対する言葉づかいや態度について指導している。職員は、利用者を人生の先輩として、敬意を払って接し、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。 | |
| 38 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 集団での作業や行動を強要しない。また、利用者の方が自己決定できるように選択肢を用意して働きかけている。 | | |
| 39 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の生活の流れは基本的にはあるがご本人の意思に沿って一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。 | | |
| 40 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 1回/2ヶ月はお洒落会を開催してマニキュア遊びで楽しんだりお化粧したりして、訪問美容師に素敵にカットしてもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 担当職員が献立、買い物をして利用者の方にじゃがいもの皮むきなど手伝ってもらっている。また、食後の後片付け、食卓台拭きや膳拭き等も手伝ってもらっている。 | 三食とも事業所で食事づくりをしている。職員が交代で献立、食材の買い物、調理を担当している。利用者は野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、おぼん拭き、下膳など、できることを職員と一緒にしている。事業所の畑でつくっている野菜(ナス、キュウリ、トマトなど)を収穫して食材に使用している。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べている。ラッキョ漬け、キュウリ漬け、干し柿づくりなどを行っている。誕生会、弁当を取り寄せての女子会、秋刀魚パーティー、弁当持参でのぶどう狩りや梨狩り、喫茶やファミリーレストラン、うどん店などでの外食、家族との外食など「食」を通した様々な取り組みをして、利用者が食事を楽しめるように支援している。 | |
| 42 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量は毎食記録に取り把握している。また、必要に応じて刻み食やとろみ食にも対応している。毎食、汁物を付けてバランスの良い美味しい食事を提供している。 | | |
| 43 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 3食後口腔ケアをしている。介助が必要な利用者の方には職員が対応している。 | | |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け誘導等を行っている。 | 利用者の排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。 | |
| 45 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を作成している。また、食事の工夫や水分補給等にも努めていて毎日の体操で便秘の予防にも取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 基本的には午後(13時30分～15時)を入浴時間としているが、利用者の方の体調に合わせて清拭やシャワー浴などの支援も行っている。 | 入浴は毎日、13時30分から15時まで可能で、利用者の希望や体調に応じて、1日おきには入浴できるように支援している。利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴で対応している。入浴したくない利用者とは、無理強いないで、タイミングを変えたり、言葉かけに工夫して支援している。日々の入浴で、利用者の清潔を保つ他、2ヶ月に1回、おしゃれ会を開催し、マニキュアやお化粧品、訪問美容師による髪のカットなど、身だしなみやおしゃれの支援をしている。 | |
| 47 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一日をゆったり・のんびりと過ごしていただきたい。昼食後、テレビを観ながらうとうとと居眠りできる空間があり安心して居眠りできるよう温かく支援している。 | | |
| 48 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの薬をファイルに収め、処方情報を共有し処方変更時の状態変化等を報告して掛かり付け医にも報告している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事作業や洗濯物干し・たたみや掃除、食後の後片付けやゴミ箱づくり、塗り絵や間違い探し、カラオケ、脳トレ、ゲーム、お茶会、生け花教室、針仕事、風船バレー等々、利用者の方が楽しく生活にメリハリをつけて過ごしていただけるよう支援している。 | テレビ視聴（歌番組、ニュース）、DVD視聴（時代劇）、雑誌を読む、童謡、唱歌、軍歌を歌う、カラオケ、楽器を鳴らす、折り紙、ぬり絵、ちぎり絵、かるた、トランプ、百人一首、脳トレ、ゲーム（まちがい探し、魚釣り、数字当て、ことわざ遊び）、めだかすくい、風船バレー、口腔体操、ラジオ体操、リハビリ体操、フラワーアレンジメント、編み物、縫い物、雑巾縫い、ボランティア（マンドリンやハーモニカ演奏、フラダンス、手品、腹話術）の演技の見学、女子会、おしゃれ会、プチショッピング（お菓子）、お茶会、誕生日会、クリスマス会、畑で球根からユリを育て公民館や近所に配布、銀杏拾いをして秋の火祭りで販売、花や野菜づくり（苗植え、水やり、収穫）、テーブル拭き、野菜の下ごしらえ、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、漬物づくり（ラッキョ、キュウリ）、干し柿づくり、おやつづくり、新聞紙の仕分け、新聞紙でゴミ箱づくりなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いのある日々が過ごせるように支援している。 | |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 体調や天候等に配慮しながら野外散歩やドライブ等を行っている。また、地域のお祭り事には積極的に参加して多くの皆様と触れ合う機会を設けている。春と秋の外出として近くの笠戸島ハイツや国民宿舎大城でのランチ女子会を計画している。 | 散歩やドライブ、地域の祭り（アイランド祭り、ふれあい祭り、秋の火祭り）、運動会、どんど焼き、季節の花見（梅、桜、バラ、紫陽花、コスモス）、ぶどう狩りや梨狩り、喫茶店やファミリーレストラン、うどん店などでの外出など、利用者が戸外に出かけられるように支援している。 | |
| 51 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 殆どの利用者の方は自己管理が難しいため、基本的には所持金はなしですが、遠方のご家族より必要なものは取り揃えて欲しいと預かっているケースもある。 | | |
| 52 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を掛けたいとの要望があれば、その都度、支援している。また、2回/年（夏・冬）のハガキの便りにもチャレンジしていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間には季節のフレッシュな花を飾り居心地の良い環境づくりに努めている。また、廊下には利用者の方と一緒に作成した季節感溢れる壁面飾りを飾り、不快感や混乱を招かないように工夫している。 | リビングダイニングは、大きな窓から自然の光が差し込んで明るく広々としている。ダイニングテーブルや椅子、小型のテーブル、大型テレビに大きなソファなどを配置し、テーブルには季節の花が活けてある他、廊下の壁面には、職員手づくりの作品や、利用者と職員でつくった季節に合わせた作品を飾り、季節感を採り入れている。キッチンから、調理の音や匂いがして、生活感がある。温度、湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。 | |
| 54 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居心地の良い空間となるように、BGMや音楽テープ、適温調整、換気、テーブル、椅子の配置にも工夫をしている。 | | |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室には今迄使われていた馴染みの品物を持参してもらっている。居室の配置は、利用者の方とご家族と相談しながら配置しており、タンスの上にご家族の写真を置いたりしてその人らしく個性のある居室になっている。また、利用者の方同士と一緒に居室で寛いで過ごされている方もいる。 | 整理ダンス、三段ケース、籐のタンス、衣装かけ、テレビ、椅子、ゴミ箱、座布団、ぬいぐるみ、週刊誌など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、フラワーアレンジメントの作品やカレンダー、寄せ書きの色紙、家族の写真を飾って、安心して過ごせるように工夫している。 | |
| 56 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全第一を最優先として、危険のないように不要なものは取り除き、安全と安心と自立に向けた生活が出来るように工夫している。 | | |

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム笠戸

作成日：平成 29 年 9 月 8 日

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|------------------------------------|---|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念の作成について | 理念の目標 ①利用者様の人権を尊重し、地域の人々に寄り添う明るいグループホーム笠戸 ②地域と結びついた生活を大切に、穏やかに安心・安全にスローライフを楽しんでいただけるよう支援していきます。 | 職員一人ひとりの理念を話し合い①・②の理念をあげることが出来た。 地域との交流を深めるため、地域の人を交えた「ふれ合いカフェ」の日を実施した(1回/月) | 1ヶ月間 |
| 2 | 4 | 全職員が全項目の自己評価に取り組むことが出来なかったことについて | 次回からは全項目を全職員が自己評価に取り組んでいく。 | 全職員が力を合わせ、全項目に取り組んでいくことを決定した。 今後、56項目について勉強・学習していく。 | 1ヶ月間 |
| 3 | 5 | 運営推進会議において、意見交換が余り発表されていないことについて | 沢山の意見交換が欲しい。 | 他のグループホームとの繋がりを持ち、情報交換できる場や研修に参加していく。 | |
| 4 | 14 | 計画的な研修の実施、研修内容の充実、外部研修への参加機会確保について | 計画的な研修として (施設内のデイサービスセンター、有料老人ホーム、グループホーム笠戸)1回/月の勉強会。グループホーム笠戸事業所独自の勉強会を1回/月実施している。 | 外部研修への参加を呼び掛けている。 | 1ヶ月間 |
| 5 | 35 | 全職員に対する応急手当や初期対応の定期的訓練の実施について | 応急手当や初期対応の訓練の実施に取り組んでいく。 | 看護師による応急手当や初期対応の訓練を1回/6ヶ月、2回/年定期訓練をしていく。 | 1ヶ月間 |
| 6 | 36 | 災害時の地域との協力体制を築くまでに至っていないことについて | 災害時の地域との協力体制を整えていく。 | 運営推進会議を通して地域の自治会長に協力体制の構築を一緒に考えていく。 | 1ヶ月間 |

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。